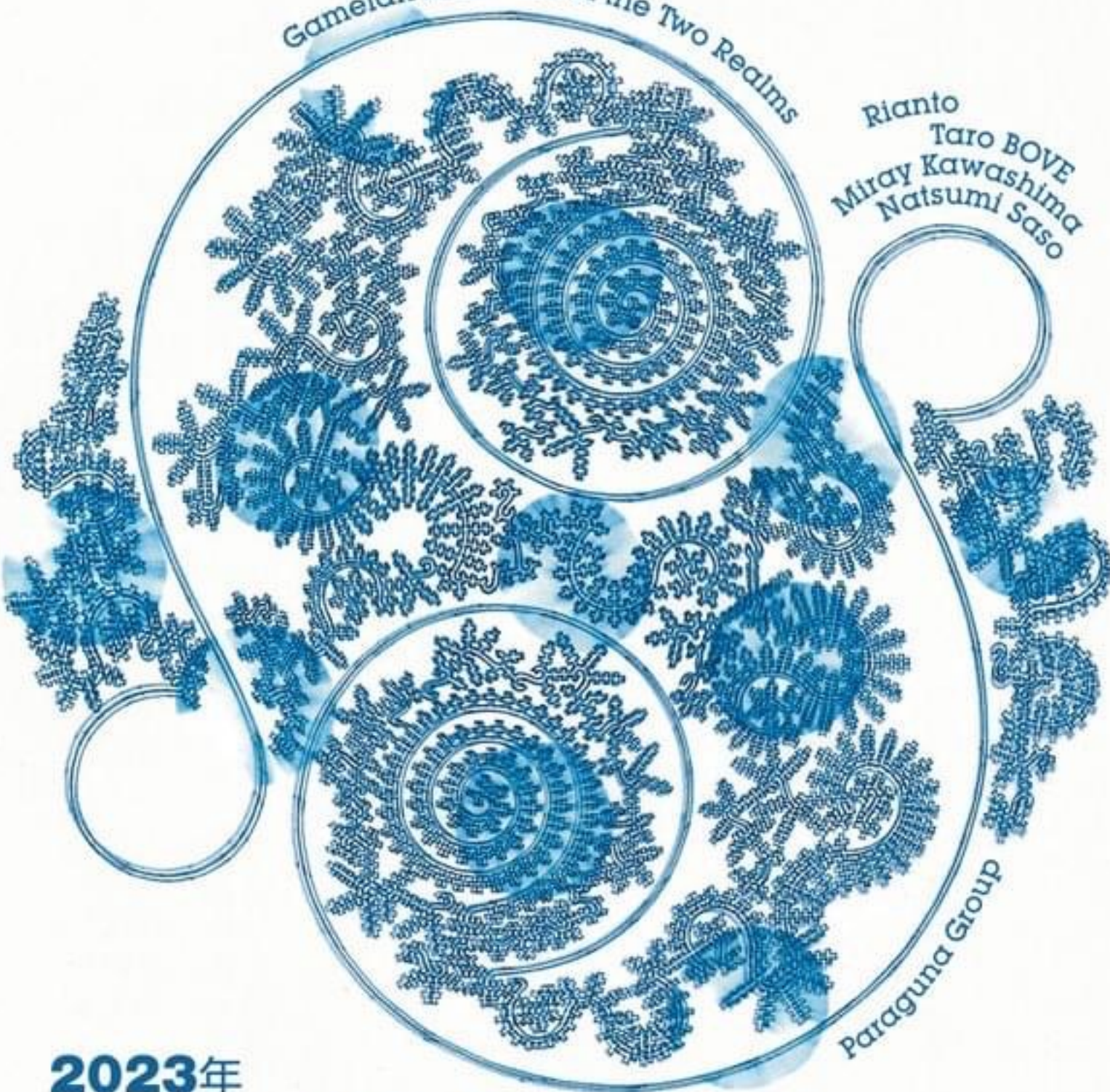


両界ガムラン曼荼羅

Gamelan Mandala of the Two Realms

Rianto
Taro BOVE
Miray Kawashima
Natsumi Saso



Paraguna Group

2023年

5月5日 金祝 6日 土

開演18:00(開場17:30) 開演15:00(開場14:30)

自由学園明日館・講堂 東京都豊島区西池袋2-31-3

チケット：前売り¥3,000(当日¥3,500)

出演

ガムラン

パラグナ・グループ

舞踊

リアント、ボヴェ太郎

川島未来、佐草夏美



Rianto

リアント

舞踊家、振付家。インドネシア中部ジャワ・パヌマス出身。インドネシア国立芸術大学スラカルタ校舞踊科卒業。パヌマス伝統舞踊レンゲル、ジャワ古典舞踊、コンテンポラリー・ダンスと幅広いレパートリーを持ち、世界各地で公演を行う。2006年デワンダル・ダンス・カンパニーを設立以降、舞踊の振付や後進の育成にも積極的に取り組んでいる。様々な国際プロジェクトに関わりながら、2016年よりソロ作品「Medium」を世界各地で上演。2018年ガリン・ヌグロホ監督(インドネシア)によるリアントの半生を描いた「Kucumbu Tubuh Indahku - Memory of my body」(ベネチア映画祭参加作品)が各地で上映された。故郷パヌマスに芸術センターを設立し、希少な芸能や文化遺産を保存、継承する活動を行っている。

Photo by SATKO

舞踊家。15才よりジャズ・ダンス、コンテンポラリー・ダンスを始める。2001~04年インドネシア国立芸術大学スラカルタ校舞踊科、マックスガラン王宮にてジャワ舞踊の研鑽を積む。2006年リアントと共にデワンダル・ダンス・カンパニーを設立。以降、デワンダル主催公演、インドネシア大使館主催イベント、瀬島天神梅まつり、靖国神社みたままつり等に出演。2016年デワンダル・スタジオ(文京区)をオープンし、自主公演やワークショップを定期的で開催している。インドネシア、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、ハワイ等で、ジャワ舞踊やコンテンポラリー・ダンスを上演。



Miray Kawashima

川島未未

両界ガムラン曼荼羅

「響きの曼荼羅」に見立てられた《ガムラン曼荼羅》は、ガムランの楽器群を曼荼羅として舞台上に配置し、曼荼羅や陰陽に基づく円環的な時間構造による8曲セットの組曲。2020年にパラグナ・グループによって初演され、今回の公演では、あらたな8曲セットの《ガムラン曼荼羅II》を加えて「両界ガムラン曼荼羅」として演奏される。「両界」とは、密教の概念ではなく、二つの組曲が陰陽のように一対の関係となり、それぞれの組曲では、陰陽を象徴する二組の異なる男女の舞踊が登場する。

フランク・ロイド・ライトのコンセプトが具現化された自由学園明日館。その講堂のなかで演奏される二組の「ガムラン曼荼羅」は、ライトの有機的な空間に溶け込み、そして、男女四人の舞踊の身体を揺さぶりながら、ガムランによる二つの「響きの曼荼羅」がかたちづくられていく。



1985年結成。インドネシア・スンダ(西ジャワ)音楽のグループとして、東京を拠点にガムラン・ドゥグン、トゥンパン・スンダの演奏活動を行っている。スンダの音楽家との共演も多く、インドネシアのガムラン・フェスティバルにも多数参加。古典曲の他、ルー・ハリソン、藤枝守作曲の現代作品も精力的に演奏し、幅広い活動を展開している。「ガムランが織る」公演(2018)、「ガムラン曼荼羅」公演(2020/2022)、「福岡ガムラン・フェスティバルー共鳴するガムラン」(2022)出演。2021年CD「ガムラン曼荼羅/藤枝守」(MAM-0003)をMilestone Art Worksより発売。YouTube「Paragunaチャンネル」を開設し、随時配信中。小谷竜一、後藤弓寿、小林賢直、佐藤紀子、峰野豊久、村上圭子、森重行敏、飯島あづき、石原鼓雄太、井手迫瑞希、田口琴巳 <http://www.paraguna.com>

Paraguna Group

パラグナ・グループ

Natsumi Saso

佐草夏美



舞踊家。幼少時より、華・地唄三味線に親しむ。東京芸術大学音楽学部邦楽科華曲専攻卒業。大学在学中、ジャワのガムランと宮廷舞踊に出会い、現地へ行き来して研鑽を積む。次第に自身の身体や生活する環境から生まれる音楽や舞踊を求める方向へ変化。声も伴いながら、さまざまな音楽家との即興を試みている。2014年「ガムランの般若心経」(藤枝守作曲)でパラグナ・グループ(西ジャワのガムラン)と初共演。以降、2018年「ガムランが織る」公演、2020年「ガムラン曼荼羅ー響きの回廊へ」公演など、藤枝守作品に多数出演。

<https://pamor.exblog.jp/13/>

舞踊家、振付家。空間の(ゆらぎ)を知覚し、感応してゆく「聴く」身体をコンセプトに、歴史的建造物や庭園、美術館等、様々な空間で創作を行っている。主な作品に「不在の痕跡」「余白の辺縁」「百代の過客」「CONATUS」等がある。能楽との共演作品に「消息の風景一能(杜若)」「Reflection一能(井筒)」「縹渺の露一能(野宮)」「寂寥の薫一能(楊貴妃)」他。劇場作品の他、「微か」(世田谷美術館)、「カンディンスキー展」(京都国立近代美術館)における公演、西ジャワの古典歌曲トゥンパン・スンダとの共演等がある。藤枝守作品「ガムラン曼荼羅」公演(2020/2022)、現代神楽「玉垂」公演(2023)に出演。

Taro BOVE

ボヴェ太郎



両界ガムラン曼荼羅 藤枝守

組曲(ガムラン曼荼羅 I)は、2020年11月にトニー・キーコンサーツ・ラボで「バラグナ・グループ」によって初演された。「曼荼羅」や「陰陽」にもとづき、円環的な時間構造をもつ楽曲構成が試みられている。また、曼荼羅を模した実際の舞台では、ゴングが中央に据えられ、そのゴングを四方から取り囲むように一対のサロン、ボナン、ジュングロンが配置された。

〈ガムラン曼荼羅 I〉は八つの楽曲(Piece I~VIII)による組曲として構成され、八つのフレーズ(Phrase A~H)が個々の楽曲をかたちづくる入れ子構造になっている。また、拍法や拍子の設定も楽曲ごとに入れ替わり、それぞれの楽曲を際立たせていく。今回、初演される

(ガムラン曼荼羅 II)は、前作の楽曲手法を踏まえながら、さらにカノンのようなメロディック・パターンの時間的な遅延による手法が用いられている。また、それぞれの〈ガムラン曼荼羅〉では、「陰陽」のシンボルとなった二組の男女二人の舞踊(リアント+川島未来、ボヴェ太郎+佐草夏美)が登場し、曼荼羅となった円環的な舞台の縁をゆっくりと辿る。

なお、〈ガムラン曼荼羅〉のメロディック・パターンの生成にあたっては、植物の電位変化のデータを交換する〈植物文様〉シリーズの手法が用いられている。その電位変化のデータは、福岡市の香椎宮の御神木である「綾杉」から採取されている。

Phrase I Section 1	Phrase 1 Section 1	Phrase 2 Section 1	Phrase II Section 1	Phrase A Section 1	Phrase B Section 1
Phrase III Section 1	whole 4 Phases	Phrase IV Section 1	Phrase C 4 Phases	Phrase D 4 Phases	Phrase E Section 1
Phrase V Section 1	Phrase 2 Section 1	Phrase 3 Section 1	Phrase F Section 1	Phrase G Section 1	Phrase H Section 1

ガムラン曼荼羅に寄せて 森重行敏 (バラグナ・グループ)

ガムランは青銅製打楽器による合奏である。地域による差もあるが、ペログという沖縄風の五音音階と、スレンドロという半音の無い五音音階に大別される。「ガムラン曼荼羅」では西ジャワ(スンダ)のドグンと呼ばれるガムランが使われ、本来のペログ系の五音音階ばかりでなく、追加音によってスレンドロ風の音階とが一曲ごとに交互に演奏される。中央に置かれた大ゴングの周りを大小の楽器が取り囲み、曲ごとに低音部から順に反復が積み重なり、次の曲では高音部が

ら重なるなど、あらゆるところが対照的な構造になっている。一切即興的な余地はなく、ひたすら緻密な植物のように音符が重ねられていくが、ガムラン特有のやや不規則な音律により、発せられる音には必ず変りが生まれる。この作品の生き物のような魅力はここにもある。初演以来、異なる会場や楽器により毎回様々な印象を与えてくれたこの作品に、今回一対となる新作が生まれる。左右両界の曼荼羅からどんな世界が立ち上がるのか、演奏者としても期待している。

藤枝守 Mamoru Fujieda

カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部博士課程修了。博士号(Ph.D.)を取得。作曲を満洲謙二やモートン・フェルトマンらに師事。植物の電位変化データに基づく〈植物文様〉シリーズを展開。著書に『増補 響きの考古学』など。最近のCDとしては、〈ルネサンスの植物文様〉や〈ガムラン曼荼羅〉のほかに複製盤となる〈エコロジカル・プラントロン〉や『電脳カフェ』のための音楽がリリース。近年は、発音音響による〈妻の音なひ〉や博多舞の音響による〈曼荼羅〉、創作神楽(冬至にうたう阿知女作法)、モノオペラ(八雲の向日葵)、現代神楽(玉垂)などの舞台作品を手がける。2018年には台湾大学アーティスト・レジデンス・プロジェクトに招聘され(台湾茶の植物文様)を発表。今年、8月にサントリーホールでガムランの新作、9月にオーストラリア・メルボルンで「植物文様」の公演が予定されている。2020年まで九州大学大学院芸術研究科教授。現在、九州大学名誉教授。

CD

レコード芸術「準特選」MAM-0003

藤枝守
組曲「ガムラン 曼荼羅」
販売価格：2,800円(税込)
演奏 バラグナ・グループ

バラグナ・グループによって2020年に初演されたトニー・キーコンサーツ・ラボでのライブ・レコーディングによる。収録では、ダミーヘッドマイクによるバイノーラル録音の方法が採用されており、ガムランの独特な響きの実音がダイレクトに実感できる。



骨に届く? 全く新たな解釈の静寂したガムラン世界ほとんど先入観なくCDをかける——とおもわず、ふりかえった。部屋に誰かがいるわけでもない、ましてやゴングがあるわけじゃない。でも、発音している何か、誰かなどいない(はずなのに)。ひびきは前に、いや、奥に、骨に、届くのだ。アタックがないからよけいには生音があいまい、とても言ったらいいか。「ガムラン曼荼羅」、これはいかにもある特定の人のひと、コミュニティの音楽でありそういながら、どこにもない、誰でもない、逆に、どこにでもある、誰のでもある、誰にでもひらかれた——。

小沼純一(音楽・文芸批評家/早稲田大学教授)
intoxicate 2021 December

チケット予約

前売り：¥3,000 (当日：¥3,500)

■オフィシャル予約サイト



<http://www.milestone-art.com/html/contact-230505.html>

■Peatix 電子チケット予約サイト



<https://milestone.peatix.com>

お問い合わせ

マイルストーンアートワークス

tel : 090-3295-6912 (ナガシマ 12:00~18:00)

mail : info@milestone-art.com



アクセス

- 自由学園明日館へのアクセス
- 池袋駅メトロ有楽町線より徒歩5分
- 目白駅より徒歩7分



[主催] NPO法人日本ガムラン音楽振興会
[後援] インドネシア共和国大使館

[制作] マイルストーンアートワークス
[助成] 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

